

▼オンコピン注射用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ビンクリスチン硫酸塩 (U) vincristine sulfate 【分類】 抗悪性腫瘍剤 [ビンカルカロイド]

【単位】 ▼1mg/V

【常用量】 添付文書参照

【用法】 週1回静注 (1) t1/2 が長くクリアランスが小さいため1週間に1回投与でよい (11) その他の用法は添付文書参照

【透析患者への投与方法】 減量の必要なし (1,3,4,6,12)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3,10,12)

【特徴】 細胞の有糸分裂の中期に作用し、細胞分裂中期停止を起こす。血液腫瘍・肉腫を中心に抗腫瘍活性を示す。

【主な副作用・毒性】 末梢神経障害、筋力低下、運動失調、脱毛、白血球減少、消化器症状、振戦、痙攣、昏睡、便秘など神経毒性は高齢者に出現しやすく総投与量と関連する (1)

【モニターすべき項目】 CBC, WBC 分画, 肝機能, 尿酸 (U)

【代謝】 肝で代謝され70%が3日以内に胆汁に排泄される (11) 肝でCYP3Aで代謝 (U) CYP3Aが関与 (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率12% (12,14) 10~20% (13) 胆汁から糞便中に80%排泄, 尿中には10~20%回収 (U) 15%が尿中排泄 (6) P糖蛋白質の基質であり未変化体のまま胆汁中に排泄される (13)

【CL】 0.106±0.061L/kg/hr (1) 128mL/min (10) 4.92mL/min/kg, 肝硬変・胆汁うっ滞型肝障害で低下 (13) 【腎 CL/総 CL】 5% (10)

【t1/2】 三相性に消失 (U) α相: 5min (U) 0.1hr (6) 0.08hr (11) β相: 2.3hr (U) 2.3hr (11) 0.8~2.6hr (4) 1hr (6) γ相: 85hr (U,10,11) 23hr (6) 85hr (14) 22.6hr, deep compartment があるため85hr という報告もある。肝硬変で延長 (13) 1~2.5hr (12) 【透析患者の t1/2】 0.8~2.6hr (4) γ相: 85hr (10)

【蛋白結合率】 48.2% (1) 75% (U,4,10,12) 40% (6) 低い (13)

【Vd】 8.4L/kg (1,10,11,14) 96.9L/m² (13) 5~11L/kg (12)

【分布】 血液-脳関門をほとんど通過しない (U) 中枢神経系に移行する (11)

【MW】 923.04 (遊離塩基として 825)

【透析性】 除去されない (Onkologie 13: 289-294,1990) 資料なし (1)

【TDM のポイント】 一般的に TDM は実施されていない

【O/W 係数】 2.15 (11) 資料なし (1) 【pKa】 5.0, 7.4 (1)

【相互作用】 アゾール系抗真菌剤: CYP3A の代謝阻害により副作用増強。マイトマイシン C: 息切れ、気管支痙攣が発現しやすい (1) イトラコナゾール併用により肝障害、便秘、痺れ、低 Na 血症などのビンクリスチンの毒性が発現した症例報告 (長瀬大輔, 他: 日化療会誌 56:634-7, 2008)

【備考】 注射残液は冷蔵庫内では2週間は著明な力価の低下がない (1) グルタミン製剤 (マーズレン S) 2g/日併用による神経毒性の軽減効果が報告されている (兼松哲史ほか, 日病薬誌 44:1405-8, 2008)

【更新日】 20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。